

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン分野(2/5)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
レアメタル等リサイクル資源特区 (秋田県)	4.5	4.3 進捗度 ・環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額 103% ・特区に搬入されたリサイクル対象となる家電等金属系使用済製品(廃基板等の副産物を含む)の搬入量(国内、アジア地域) 74%	4.1 財政支援等 ・廃太陽光発電パネルの広域収集網の構築に係るモデル事業 地域独自の取組 ・環境調和型産業集積支援事業等	4.8	<p>・新型コロナウイルス感染拡大で操業や集荷の影響を受ける中、所定の目標値を上回る環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額を確保されたことが評価される。</p> <p>・廃太陽光システムリサイクルネットワーク構築推進に向けた知見の蓄積も優れた取組であり、さらなる発展を期待する。</p> <p>・令和2年度はコロナ禍の影響を受け使用済み製品の搬入量は減少したが、その間もステイホームなど生活環境の変化に対応して小型家電の回収運搬等にかかる現状と課題の整理が行われていることは評価できる。</p> <p>・エネルギーシステムでの脱炭素化に加え、製品製造段階、とりわけ金属素材の回収・リサイクルに伴うCO2削減は重要と認識されるので、共同回収のためのプラットフォーム構築など、より効果的な回収方策の検討や、さらに未回収の潜在的な金属資源の調査に期待したい。</p> <p>・小型家電リサイクル法の制定・施行に加えて、追加的な規制の弾力的運用等についての検討も期待したい。</p>